

平成16年度冬季における北湖での ニゴロブナ当歳魚の資源状況

根本 守仁

◆背景・目的

ニゴロブナの資源回復を目的に様々な事業が実施されているが、当场では資源状況のモニタリングとして、平成6年度から毎年、冬季における琵琶湖北湖でのニゴロブナ当歳魚の資源状況調査を実施している。本年度も同様な調査を実施し、過年度の結果と比較した。

◆成果の内容・特徴

- ・当歳魚資源尾数の推定は、標識放流調査により行った。標識種苗は、平成16年12月3日に、琵琶湖北湖6水域へ平均体長74.1～79.1mmの種苗を合計59,000尾を放流した。
- ・再捕調査は、平成17年1月6日～4月7日に沖曳網で漁獲されたニゴロブナを対象に行った。
- ・漁獲されたニゴロブナ7,863尾のうち、当歳魚が3,650尾であり、このうち60尾が上記の標識放流種苗であった。
- ・Petersen法により当歳魚資源尾数を推定したところ、資源尾数と95%信頼限界は2,858,000尾<3,589,000尾<4,825,000尾であった。図に平成6年度以降の当歳魚資源尾数の推移を示したが、平成14年度以降は資源尾数が常に2,000,000尾以上となり、平成16年度は調査を実施して以来、過去最大の資源尾数であることから、資源回復の兆しがみられた。

◆成果の活用・留意点

- ・本調査は資源状況のモニタリングであり、継続して実施する必要がある。

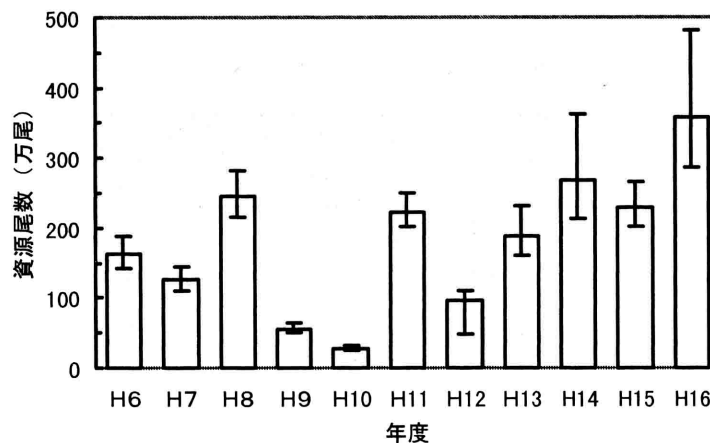


図 冬季における北湖でのニゴロブナ当歳魚資源尾数の推移